

3) 賞雅さや子「保育者に求められる『人間性』をどのように捉えるか—保育者養成校と現場が保育者の専門性を共通理解するために—」日本保育者養成教育学会第4回研究大会、福山市立大学、2020年3月1日

保育者に求められる「人間性」をどのように捉えるか

—保育者養成校と現場が保育者の専門性を共通理解するために—

賞雅 さや子（仁愛女子短期大学）

【問題】 保育者の専門性の基盤として「人間性」が重要である（「子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うためには、職員一人一人の倫理観、人間性並びに保育所職員としての職務及び責任の理解と自覚が基盤となる」（保育所保育指針））ことは養成校も現場も異論はないが、その捉え方は曖昧である。

・現場の声：「専門性やスキルは、先輩からの学びや自分自身が現場で経験して積み重ねていくものだと思う。それ以外の場面で仕事に向かう姿勢や周りの意見を素直に受け入れる柔軟性など社会人としてのマナーを十分に身につけて卒業してほしいと思う」（「仁愛女子短期大学の卒業生に関する調査結果」（2019.10）より）

・先行研究：福井県内保育者は保育者に求められる資質・能力を「態度」「保育の基本」「活動実践」などのいくつかの要素で捉えており、この中の「態度」は、社会人としての素養に関するもの、保育者特有の子ども（保護者）理解、関わり方に関するものが含まれていた*1→これが「人間性」のイメージに近い？

【目的】 2018年研究で県内保育者が保育者に求められる資質として「態度」とした要素を、社会人としての素養に関連する態度・力と、保育者としての子ども観（人間観）と援助観に関連する態度・力に分けてさらに詳細に調査、分析し、「人間性」をどのように捉えるかについて検討することを目的とする。

*1 賞雅さや子「保育者のキャリアアップと養成校の役割について」、内田雄・増田翼編「福井県内保育者対象アンケート調査結果報告書」仁愛女子短期大学幼児教育学科、2018

【方法】 「質問紙調査」：2019年11～12月。本短大幼児教育学科2年生99名、E町内保育所、幼稚園（10園）勤務の保育者97名（平均年齢41.0歳、平均経験年数15.9年）。福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書（2018）から抽出した保育者に求められる「態度」因子に関する項目と、日本版SICS*2よりFormC、「支援の方法—保育者の感性と関わり—」の項目から作成した質問項目（21項目）について、どの程度身についているかを5件法で回答。

*2 「保育プロセスの質」研究プロジェクト「子どもの経験から振り返る保育プロセス—明日のより良い保育のために—」幼児教育映像制作委員会、2010

【結果】 ●因子負荷量が低かった項目等を除外した13項目について、因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行った結果、3因子を抽出した（表1）。

・第1因子「保育者の援助力」（ $\alpha=.84$ ）：「一人ひとりの子どもや保護者を理解し、援助する力」「子どもの遊びが豊かに展開するように関わる力」等

・第2因子「職員としての責任」（ $\alpha=.79$ ）：「言葉遣いやマナーなど社会人としての常識を身につけた態度」「ストレスに対応し、自分の感情をコントロールする力」

・第3因子「保育者としての人間性」（ $\alpha=.82$ ）：「子どもや保護者の思いや経験に共感し、理解しようとする態度」等

●各因子に対応する項目の得点平均値 — 「人間性」>「責任」>「援助力」（ $p<.001$ ）（表2）。

●学生と保育者を比較すると、全ての各因子に対応する項目得点の平均で学生>保育者（表2）。

【考察】 ●2018年研究で得られた「態度」因子は、「人間性」と「責任」に基づいた保育者の子どもや保護者に対する「援助力」（関わり方）が総体として捉えられたものであったといえる。一般に養成校や現場において「保育者は人間性が大切」と言うときの「人間性」はこの「態度」と同様の捉え方で使われる場合が多いが、実際はその中身として、（人間観から表れる）「人間性」、（職務を遂行する上での）「責任」、そしてそれらに基づく（実際の）「援助力」が含まれているといえる。

*『保育所保育指針解説書』では、保育者には「人間観、子ども観などの総体的なものとして表れる人間性」や、「自らの職務を適切に遂行していくことに対する責任の自覚」が必要であるとされている。

●本研究で得られた3因子では、学生、保育者は、「人間性」「責任」はよく身についているとしたのに対し、最も身についていないとしたのは「援助力」であった。養成校や現場で、人間性や職務上の責任は保育者の専門性の基盤となる重要なものとして共通理解され、その向上に取り組まれているが、それと同程度に、人間性や責任を基盤とした、実際の援助力を身につけることの理解と取り組みが課題となることが示唆された。

項目	援助力	責任	人間性
一人ひとりの子どもや保護者を理解し、援助する力	.848	-.067	.020
子どもの遊びが豊かに展開するように関わる力	.798	-.018	-.051
子どもや保護者の思いや経験を保育者の言葉に置き換えて表現する力	.753	-.097	.040
子どもが活動への興味や意欲を高められるように援助する力	.615	.206	.012
言葉遣いやマナーなど社会人としての常識を身につけた態度	-.002	.768	-.004
ストレスに対応し、自分の感情をコントロールする力	-.096	.739	.008
時間や提出期限などを守るようとする態度	-.114	.675	.000
集団・組織の一員として自己の役割を自覚し、全体の運営に貢献していく態度	.186	.610	.013
悩みや困ったことが生じた場合、他者に相談しようとする態度	.091	.443	.025
子どもや保護者の思いや経験に共感し、理解しようとする態度	-.079	-.055	.977
自分で行動を選んだ子どもや保護者の選択を尊重する態度	.033	-.028	.738
他者の保育を観察し、優れた点などを自己の保育の改善につなげようとする態度	.008	.173	.552
子どもや保護者の行動に対して、関心を示したり、認めたりするなど肯定的に関わりようとする態度	.183	.064	.493

	全体	学生	保育者	t値
援助力	平均 3.73 SD 0.56	3.81 0.41	3.65 0.68	2.04 *
責任	平均 3.91 SD 0.63	4.04 0.56	3.8 0.67	2.73 **
人間性	平均 4.03 SD 0.53	4.12 0.51	3.94 0.53	2.40 *

* $p<.05$ ** $p<.01$

本研究は、文部科学省2018年度私立大学研究ブランディング事業「保育者養成のためのキャリア・ルーブリックの開発～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～」

（取組責任者：増田翼）の成果の一部である



保育の学びがみえるに
NPO法人 保育者養成支援機構